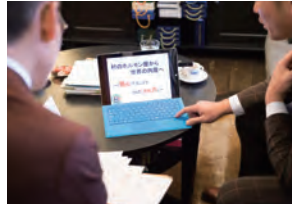




←ですがこれがどれも悉く成功し、30歳過ぎで銀行から5億の融資が受けることが出来るほど順調に事業が急拡大していきました。事業規模では父を遥かに超えたわけですが、父が大浦ミートを去った本当の理由を何年も経ってから私は聞くことになりました。父が新規事業を立上げ独立したのは、「息子が経営に失敗した時に補填できるように」という親としての配慮からだったのです。

### 1億円横領事件発生でどん底に

既存事業を保ちながら多角化経営を進め順調に事業拡大をしていると思っていたのですが、気づかないうちに社内が崩壊し始めていたのです。そして立ち上げた事業も徐々に立ちいかなくなり始め平成25年10月6日最大の事件が発生しました。その日は日曜日だったのですが夕方頃に出張帰りで行き釣銭を預かり実家に



戻りました。お店の売上管理は母親にしてもらっていたからです。実家に着くと母親が「昨日おかしなことがあつてな！集金が無いって探しまつてました！言うて自分の鞆から出してきてん。」その瞬間にもしかしてと思い、父と母と会社に行つて伝票、領収書、現金出納帳を見比べたら伝票はあるけど領収書は無い、当然現金出納帳には入金がない。領収書の束には無数に破つた形跡があり、領収書はその事務員さんしか触れないのでその方の作業に間違いありません。一気に血の気が引きました。そして調べていくうちにひとりの営業マンの車から会社に内緒の手書き伝票と領収書が出てきて二つ目の不正が見つかりました。

更に追い打ちをかけるように三つ目の不正が発覚したのです。お得意先さんから「おたくの社員さんにお金渡したけど入金ありませんか？」

と電話がありました。詳しく聞いてみると渡したら自分のポケットにしまったらしく怪しく思ったからだということでした。案の定会社には入金がありませんでした。一気に三人の泥棒を私は社内に育て上げてしまったのです。

### 家族そして仲間の存在に救われる

横領額は合計で1億円を超えていました。外を向いてばかり仕事をしていた私は中を全然見ようとしていませんでした。スタッフの溜まりにたまった不満や鬱憤が事件を起こしたのです。私は完全に社長失格です。誰のことも信じられなくなり、気分も滅入り仕事へのモチベーションも無くなりました。売上と事業拡大重視で社員のことを全く顧みていなかった自分に気づき、社長を続ける資格があるのかと落ち込みました。人生でこんなに辛い時期はありませんでした。なりたくてなった社長も辞め大浦ミートも潰してしまおう、そう思いました。でも父はこう言ったのです。「親のわしが作ったものをお前が潰して誰に迷惑かけるんや。」妻の素子は「思い切り商売して潰れてもいいやん。出来る所までトコトンやりなよ！家も会社もなくなつていいやん。そうなつたら又ふたりでお肉屋さんやろうよ！」と言つてくれたのです。やるか、やるか、しかない。

会社の雰囲気最悪でどんどん人が辞めていく中、まだ一緒に働いてくれる仲間が残っていました。三村と増田、ふたりとも中学野球部の後輩です。私を慕つてついてきてくれると言ってくれたのです。横領事件が起こり社内はボロボロ、会社を内部から立て直ししないといけません。經理のことを任せられる人材として、高校の後輩の切通(きりとおし)に電話をしました。彼のこととは心から信頼をしているのですが、經理

のことは彼は全く詳しくない。でも彼に頼るしありませんでした。「俺は今人生で一番困ってるねん、助けてくれ。」と電話をすると彼は一言「分かりました。」翌日切通から電話があり「辞表出してきました。こちらこそ宜しくお願ひします。」と十数年勤めた会社をスパッと辞めて私の会社に来てくれました。私は泣きそうでした。そんなかけがえのない仲間がいる私は、そして大浦ミートは必ず蘇る。そして絶対仲間を幸せにすると誓いました。

### 仕事の真の目的に気づかせられる

大金持ちになりたい、高級車に乗りたい！それが幸せになる為の道。以前の私はそう考えていたのですが、今はそんな気持ちも全く無くなりました。ご縁があつて一緒に働いている仲間達を大切に、その家族まで幸せにすることが会社の目標の一つである。そう考えています。そのため共に人間力を高めていけるような各種セミナーや勉強会を実施するほか、社員旅行やバーベキューイベントなど共に楽しい時間を共有し、楽しい思い出を作ることを会社を挙げて実施しています。マミロンスタッフという当社独自の人事制度があります。マミロンのマはママのマ、ミは大浦ミートのミ、ロンは長く安心したロングの意味が込められています。

